

ジェンダー・女性学研究所

NEWSLETTER 50

Aichi Shukutoku University 愛知淑徳大学

February 2021



特集

ステレオリムーブ課発足！

学生による編集、はじめました。

学生運営委員「ステレオリムーブ課」できました！

「典型(ステレオ)的な考え方を取っ払おう(リムーブ)！」

という気持ちで名付けました。

キャッチフレーズは「**性別、燃やせ**」(表紙)、キャラクターは「にじもじゃ」(下記)に決まりました。

～メンバー紹介～

伊藤唯花 (文学部1年)

初めまして、伊藤唯花です。文学部国文学科に所属しています。コロナ禍のおかげで料理のレパートリーが増えた気がします。あとは映画・アニメ鑑賞とかぎ針編みに熱中しました。最近見たのは「A.I.」と「銀魂」です。かぎ針編みでは、コースターやペットボトルホルダー、シュシュなどの小物をメインに作っています。

川端菜月 (交流文化学部3年)

こんにちは！交流文化学部3年の川端菜月です！私はロックバンドが大好きで高校の頃からライブハウスに通いつめの日々でした(笑)。今は、コロナウイルスの影響でフェスやライブに全く行くことができていませんが少しでも早くライブハウスに活気が戻るように願ってます(笑)。こんな時期ではありますが、皆さんも自分らしく楽しく暮らしていきましょう！

北原優奈 (文学部3年)

初めまして！文学部国文学科3年の北原優奈です。コロナウイルスの影響で家にいることが多くなり、ますます引きこもり度が増えました。ただ3年生の冬…しんどくも就職活動が始まりつつあるので、死に物狂いで頑張っていきたいと思えます。こんな世の中ですが、気持ちには負けずに楽しい日々を送りましょう！

柴田莉穂 (福祉貢献学部1年)

こんにちは。福祉貢献学部1年の柴田莉穂です。私はリーフレットを担当させていただきました。今回のコロナ禍で自分がオンデマンド授業に向いていないことを自覚しました。決められた時間にやるなら出来るのですが、自分でやる時間を決めてやるとなると出来ないんですね。自分でコツコツ出来る人を尊敬します。早く対面授業になりますように。

立松里菜 (創造表現学部3年)

こんにちは！創造表現学部3年の立松里菜です！アイドル・舞台観劇が好きでライブなどによく行きます◎。先日、コロナ禍が落ち着いた際に、久しぶりに劇場に足を運んで感動しました…！つらい状況で心の支えになる「楽しい！」をこの記事で感じてもらえたら嬉しいです。

羽生勇太 (人間情報学部1年)

こんにちは、人間情報学部の羽生勇太です。趣味でゲームをやっているのですが、最近やったゲームのせいで、山とかの自然を見たときに「ここから登ったら早そう」とか「ここ安全そう」とか無意識に考えてしまいます。無意識にやってしまうことって、なかなか怖いですよね…。頑張って記事を書いたので、楽しんで読んでいただけたら幸いです。

林桃歌 (ビジネス学部2年)

ビジネス学部グローバルビジネス専攻の林桃歌です。趣味はフィルムカメラやiPhoneで写真を撮ったり、動画を作成したりすることです。この活動を通してワクワクすることをたくさんやっていきたいと思えます。よろしくお願いします！

前畑朱里 (創造表現学部3年)

ジェンダーについて、興味を持っていただけると嬉しいです。最近、漫画や2.5次元舞台などにお金を使い過ぎて金欠です。皆さんもクレジットカードを持つ際は理性的に使いましょう。破産します(笑)

にじもじゃ

ジェンダー・女性学研究所のキャラクター。林桃歌さんがつくってくれたよ！クリアファイルにもなっているので、ぜひゲットしてください！



シリーズ

ゆるりと巡るジェンダー研

第1回 愛知淑徳大学ジェンダー・女性学研究所



ジェンダー・女性学研究所の入り口に来てみると、白い壁とガラスの窓が目に入ります。扉には「WELCOME」と書かれた札がかけられており、ジェンダーや女性学についてよくわからない学生でも自由に入っていいことをアピールしています。扉の右側には、過去のニュースレターがラックに立てかけられており、これらは自由に見て、気に入ったものは持ち帰ることができます。扉の左側には、ジェンダーや女性学に関連する掲示物が貼られています。このスペースには、映画や特別展のチラシも貼られているため、映画や特別展を見に行くことが好きな人にとって興味深いものもあるでしょう。ジェンダー・女性学研究所の入り口の左側はガラスの窓で覆われており、研究所内の様子を外から見るできるようになっています。

研究所内は、明るい印象をしていて、まるで図書館の一室のようです。床は鮮やかなマットになっており、入り口から入って右側には、ソファが設置されていて、今はコロナ禍だからできませんが、安心して学校に来られるようになったら、ゆったりと資料や本を閲覧できます。リモートでの会議用の機材もそろえており、研究所内の活動と研究所外の活動の両方に、環境



に合わせて柔軟に対応することができます。

入り口から入って左側と廊下側には、本棚が設置されています。左側に設置されている本棚は2層構造となっており、手前の本棚をスライドさせると奥の本棚が現れます。これらの本棚には、研究所らしい専門的なことが書かれている専門書だけでなく、気軽に読むことができる漫画や小説も置かれています。漫画や小説を読むために試しに研究所に来てみるのもいいかもしれません。

Book Discovery

「逃げるは恥だが役に立つ」海野つなみ

あらすじ

派遣切りにあって再就職もままならないみくりは、父親から会社の部下である津崎のハウスキーパーを頼まれる。そしてある日、津崎から思いがけない提案が!?



作中でジェンダー問題を多数取り扱っているのがジェンダーの入門にいかがでしょうか。

みんなで感想を言い合おう！
イベント企画中！お楽しみに！

所蔵図書の貸出、やってます！

貸出期間・冊数

2週間・3冊まで
(郵送の場合は1ヶ月・3冊まで)

オンラインでの手続き方法

1. 借りたい本を探す
2. 大学が発行したメールアドレスを使い、研究所宛にメールで申し込み **これだけ！**

今の状況に合った
郵送料し出しもできます!!

※返送用の封筒が
同封されているので
送料の負担がありません

ここにアクセス！



学生座談会

ジェンダー・女性学研究所では、ジェンダーに関する学生の主体的学びをサポートするという目的の下、研究所を盛り上げるべく学生が募集されました。わずか1日で14人の応募がありましたが、人数制限があるため先着順8名で「ステレオリムーブ課」と名付けて活動することになりました。研究所のキャッチコピーやキャラクター、ニューズレターの編集など、多岐にわたり運営にかかわることになりました。

Q なぜ、応募しようと思ったのですか？

羽生さん

編集面白そうだなと思った。ジェンダー研という意識はなかったですね。

前畑さん

ゼミでジェンダーについての記事を書いていました。私がここにインタビューをしに来た縁で。

立松さん

ジェンダーイベントの主催者の方に取材をして記事を書いていることもあって。

川端さん

編集面白そうと思ったのと、身近にジェンダーの授業があり、研究所は星が丘との関わりが少ないので、星が丘の学生として関わられたらいいなと思って参加しました。

北原さん

編集が気になっていました。友達がジェンダーの一般教養の授業を取っていて、その話を聞いて、興味があったので参加しました。

林さん

デザインに興味がありました。ジェンダーって何？ツイッターなどでも、デザイン系の仕事はジェンダーをおろそかにしがちという投稿を読んで、若者に身近なものとして考えられたら良いなと思いました。

伊藤さん

編集やりたいという思いがありました。ジェンダーもテレビなどで扱われていて興味を持ちました。

司会者

ジェンダーに興味がある人と、編集に興味がある人というね。どちらでもいいんです。とにかく広く学生に興味を持ってもらうためにはどうしたらいいか、考えてほしいです。皆さんがインフルエンサーみたいになってほしいな。

林さん

明確な答えは難しいけれども…私たちにできることがあるとしたら、取材の機会を活かして、さまざまな学生たちの声に傾けて、みんなが見やすい話題を届けたいですね。

前畑さん

ジェンダーを取りあげている映像作品を紹介する。気づきになるのではないのでしょうか。



羽生さん

学生が集まる場所でもアピールする。存在感を知らせたいです。

立松さん

ジェンダーについて知ってもらうことが大事。知らない、関わりがない人もたくさんいるだろうから、知るきっかけを作りたい。「逃げ恥」もジェンダーがらみの話だった。アニメ論の授業でもジェンダーの視点をもって分析してみた。そうやって授業で触れることが色々あるといいですね。

司会者

みんなで同じ作品について話し合ってみてもいいかもしれないね。

林さん

ジェンダーに対して目を向けられるようになってきた。ジェンダーだけではなくて、これまで当たり前だと思っていた慣習や価値観が動き始めていると思って。ジェンダーをきっかけにこういう生き方もあっていいんだよ、こういう考え方があっていいのではないかということを発信していきたいです。

司会者

ジェンダー研の研修会ではこれまでのようにきくだけではなくて、みんなでしゃべるということをできないかと以前から考えているんですよ。学生の皆さんも話したいよね。どうしたらその機会が増えるかな？

川端さん

星が丘でゲリラ的に開催はどうですか？以前にそういったイベントに遭遇したことがあります！

司会者

おー！長久手の学生が星が丘に乗り込む（笑）?! スクリーンをはって、長久手とオンラインで話をするのもいいかもしれない。じゃあ、学生が主体的に参加してくれるような手段は何かあるかな。

前畑さん

ツイッターは情報発信なので、CS(※学内掲示板)より情報をフォローしやすい。新しい書籍、ニューズレターや講演会、チラシの情報を流すのはどうですかね。

立松さん

インスタはインスタライブなども可能だし、Youtubeでも可能。広げる場としてはインスタが適切ではないでしょうか。

司会者

なるほど、なにか発信手段を考えようか。それにしても、やるべきことがたくさん出てきたね。映像作品をジェンダーの視点からみんなで批評しあうとか、SNSを使って情報を発信するとか、ゲリラ討論会の開催まで…。これからの活動が楽しみです！



私はあの時こうやって乗り切った ～2020年コロナ緊急事態宣言～

女性視点で感じたコロナ禍での就職活動と柔軟な社会への希望

心理学部心理学科4年 古川 夏帆

今年の就職活動は、コロナウイルス感染症の影響を受けとても大変だった。

例年、対面方式が主流で行われていた説明会や面接は前例のないオンライン方式へと移行し、状況に合わせて二転三転する企業の対応に困惑した。

そんな中、2020年4月に発令された緊急事態宣言によって大学に行く機会がなくなり、就職活動の悩みを誰かに相談したり気分転換に友人と話したりする機会を失った。一時的にストップした採用活動がいつ再開されるか分からない状況が続き、毎日エントリーシートを書き、面接練習をする日々を2、3か月過ごした。この期間は先行きの不透明さや孤独感との闘いで辛い日々だった。

就職活動の中でも最も苦しかったのはオンライン面接だ。対面での面接しか練習していなかったため、オンライン面接は試練の連続だった。慣れないネット接続に加え、初対面の面接官に画面越しで話の熱量やその時の感情まで伝えることが難しく、自分の話は本当に面接官が求める内容なのか悩み、なかなか自信を持って面接を受けることができなかった。

ところで、2021年3月に卒業する女子学生の2020年10月時点での内定率は、男子学生90.9%に比べて86.3%と低くなってい

るデータがある。内定率に男女差がみられる一因として、全国転勤型の総合職は男性が就く職種と捉える企業の存在があると考えられる。私自身、全国転勤型の総合職希望で応募しても女性には結婚・出産というライフイベントがあるからという理由で、社員から転勤がない地域勤務型の総合職を勧められる経験をしたことがある。この打開策としては、家庭内の家事分担や柔軟な働き方ができる環境を整えることが挙げられる。これにより、性別やライフイベントの有無に関係なく希望する職種でキャリアを積むことが可能になると思う。しかし、現実はまだこのような日本の環境は欧州主要国に比べて整っていないように感じる。

オンライン方式に苦戦し、思うように結果が残せず幾度も悔し涙を流した。あまりの苦しさは何度も1社内定を頂いたら就職活動を終わらせようと考えたが、最後まで諦めずに取り組んだ結果、大学入学時から希望していた企業から内定を頂く事ができた。改めて就職活動を振り返ると、この経験で身に付けた、状況に順応して最大限の成果を出そうとする適応力は、今後の自分にプラスになると考える。また、コロナ禍で発展した在宅ワークにより性別や周囲の環境にとらわれず、自由な働き方ができる社会となることを望む。

自分らしく進むこと

グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科4年 溝口 真央

私には高校生の頃からの夢があり、より深く学ぶために海外の大学院に進学したいと考えている。しかし、周囲の人に「女の子だから、安定した仕事に就きなさい」、「あなたは女の子だから将来のことを考えて進学せずに就職しなさい」と言われた。私は4人兄弟の長女で唯一の女の子だ。だから、小さい頃から「女の子だから…」とよく言われたが、私はこの言葉が嫌いだった。周囲の人は私のことを考えて言ってくれているのだろうが、言われると辛い言葉である。両親との約束で進学準備と就職活動を並行して進めていたが、自分が女性であることでどうして夢をあきらめなければいけないのだろう、就職したほうがいいのかと思う悩んだ。また、コロナ禍だから海外への進学を諦めたほうがいいのかと思うと考えた。コロナ禍による環境の変化と自分自身の気持ちの変化に苦しんでいた。私の友達の多くが卒業後は就職する。皆と違う選択をするのが、不安でたまらなかった。

最もコロナの影響を受けたのは就職活動である。春に開催されるはずの合同企業説明会が中止となり、就職活動も止まってしまった。当時はただ不安でいっぱい、自分が何をすれば

いいのかわからなくなってしまった。先が見えず、まるで自分だけが取り残されているように感じた。その後、就職活動は徐々に再開したが、企業の人と直接会うことやお話を伺うことができなかった。また、志望していた企業で新卒採用をしない決定をした企業もあった。そのたびにコロナがもたらした影響を実感した。

最終学年である今年、大学の友達と楽しい思い出を残さずには、これもコロナの影響でできなくなってしまった。そんな時に友達が「応援してるよ」、「夢をかなえてほしい」という言葉をかけてくれた。友達の応援が私の夢を後押ししてくれた。学部の先生方もサポートをしてくれた。こんなに私をきにかけてくれる人がいるのだととても嬉しくなった。コロナ禍でみんなと一緒にいる機会は減ったが、つながりの大切さを実感した。

コロナ禍の就職活動は大変だったが、自分が何をしたいのか、どうしていきたいのかを考える良い機会になったと思う。現在も大変な状況ではあるが、周囲のサポートのおかげで自分の夢を追いかけることを決意した。「女の子だから」などという言葉に気をせず、自分らしく夢をかなえるために努力していきたいと思う。

コロナ禍の我が家



事務局総務事務室主任 安江 朋希

本学において、年末調整時に提出する扶養家族などの記載書類が2ページに亘るのは私だけであろう。というのも我が家は妻に加え、子どもが4人いるからである。一年程前から私の知らない間に突如家族の一員となった愛犬(ビーグル)のモコも含めれば、6人と1匹の7人家族となる大所帯である。

高校1年生の長男、中学校2年生の次男、小学校3年生の長女、保育園年長の次女の子ども4人のバランスの良い組織構成を想像していただくと、人数的なボリューム感と長々と続くであろう子育て期間が際立つと思うが、中学生の次男は中学校1年生であった昨年の夏休み明けから不登校であったり、保育園児の次女が生まれつきダウン症候群で療育手帳3級の知的障がい児であったりと、内容的にもなかなか濃い家族構成となっている。

現在も変異種が世界中で次々と発見され、日本でも全国各地で感染者が急増するなど感染拡大が続く新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の第一波感染拡大が起こったのが2020年3月~4月頃、そして愛知県でも感染拡大が発生し、県独自の緊急事態宣言が4月10日に発出され、これの措置が5月31日までの期間で延長されたのは記すまでもないだろう(その後、夏の第二波、冬の第三波と続くことも周知の事実である)。

昨春の緊急事態宣言の発出直後には、本学でも事務職員を中心に在宅勤務が推奨され、私自身も業務に差し障りの無い中で在宅勤務を何度か経験することになったが、自宅には家族全員が常にいる状態、さらに狭小マンションで書斎や作業スペースなども無い中で在宅勤務ということもあり、先ず仕事をおこなう環境を何処にどの様に確保しようか、とても苦労した覚えがある。終日あるいは半日の時間、自宅で通常業務を普通におこなう難しさを嫌と言うほど感じた貴重な期間でもあった。

先に述べたように大家族を組織する我が家において、前述の苦労以外に、緊急事態宣言の発出により、それによりどのような生活を強いられる事になるのか、この得も言われぬ不安自体が一番の心配事であった。しかしながら、幸い末っ子の次女が通う保育園の登園自粛期間と妻がパートとして働く子ども園の休業要請時期がほぼ一致してくれたこともあり、大きな混乱や我が家の生活維持・継続のために私自身が臨時休暇などの対応を取る必要が無かったのは幸いであった。小学校に通う長女は、マンション内の同級生らとゲームをしたり、遊戯をしたりと毎日時間を潰してくれるのも我が家にとっては大変有難かった(勉学については、小学校から提示された最低限の宿題をこなす程度であったが、日本中が混乱期だった事もあり、その時は特段勉強面の進捗や同級生との学力差などは気にしていなかった)し、長男と次男は、ネット環境が整っている自室で好き放題に勉強やゲームに勤しむ生活をしてたと記憶している(長男は私立の中高一貫校へ高校から入学したばかりだったため、この自学期間が中学校上りの同学年の猛者たちに追い

つく好機となり、次男にとっても自身同様に社会全体で誰しもが学校に行けないという状態がかえって心の安心を生む期間となったように見えた)。

そういう意味では夫婦の心配は、期間中の心配よりも、緊急事態宣言明けに子どもたちが各学校へ行きたくなくなってしまうのではないかと、同級生に比べて勉強の遅れが出てしまうのではないかと、そういった“心配”が直後に湧いた最大の不安であり、それらの不安を夫婦それぞれで何となく持ち合わせていたと思う。当然その不安は、次男の不登校が昨秋から続いていたことが大きく起因していたが、次男は逆にコロナ禍により社会全体が一時休業状態となったことが幸いしたのか、休業期間明けから少しずつ中学校へ行くようになってくれた。11月などは朝からの登校では無いもののほぼ毎日学校へ行き、私たち夫婦にそのことを自慢してきたことを鮮烈に覚えている。スマホやゲームへの依存による夜型人間からは未だ脱却できておらず、昼から登校する社長出勤スタイルが続いているため、まだまだ全快とは言い難く、またいつ何時学校に行かなくなるのか予断を許さない状態ではあるが、何とか現在は文句を言いつつも制服を着て校門をくぐっている。

次男のことが主にはなるが、これまで個々でバラバラの行動が多く、少しばかり核家族化していた我が家にとっては、それぞれ不満はあれど半強制的に家族で一緒の時間を過ごせたことも含めて、あながちコロナ禍の休業期間が一応に悪い訳ではなかったのかなどと不謹慎かもしれないが本音も混じる部分も多少ある。旅行など遠出ができず、祖父母が暮らす夫婦それぞれの岐阜の実家にも丸一年程帰省もできず、特に下の子どもたちにはストレスの溜まる日々が続いている現在ではあるが、家族全員が無事に日常を過ごしていることは何より有難いことである。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続き、決して安心できない毎日であるが、それでも時間も、社会も、そして子どもたちの成長も、平等に且つ通常通りに進んで行く訳で、大学受験や高校受験など、人生の大事なイベントがまだまだ頻発する我が家としては、決して安堵する事ができない世の中ではあるが、何よりも先ず、家族全員がこのままずっと笑顔で生活できるようにと願わずにはられない今日この頃である。

子どもの命と育ちを守るために

愛知淑徳職場内保育室 (AS 保育室) 室長 大宮 摂子



2020年の今年の一文字に「密」が選ばれましたが、保育の現場でもこの一年は「密」に対する答え探しのような年でした。新型コロナウイルス (以下コロナ) の発生により生活は急激な変化を強いられました。当初の情報では「子どもは罹りにくい」と言われていました。しかし、武漢での乳児死亡例を知り、国内にも忍び寄ってきた2月頃よりにわかに私たちはコロナの脅威を実感し始めました。子どもを守るために、2月末に国より臨時休校の要請が突如だされ小学校から大学まで学校は休校の対策が取られました。しかし、保育所は児童福祉法により休園してはならない施設です。私たちは感染予防対策しながら「通常の保育」を行うために、必要な衛生用品 (消毒薬やマスク等) を求めて奔走しました。市場も安定し始めた3月下旬ごろには管轄の長久手市が物品などの体制を整えてくれました。

保育所の予防対策として、手洗い・マスクの着用に消毒、そして「3密」(密閉、密集、密接) の対策ですが、子ども同士、子どもと大人が密接に関わってこそ「保育」が成り立っています。この関係性を保ちながらどうしたら「3密」を避けて保育することができるか、職員一人ひとりの気づきや発案と情報共有を基に話し合い対策をすすめることにしました。具体的には、衛生管理のための仕事量 (共有する場所や保育上の用品等の消毒・洗濯など) が増えるため仕事の役割分担と職員の勤務体制を見直しました。また、保育の方法も密にならないように活動を分散し時間差を作り行動するなど工夫や配慮をしてきました。さらに、行事を見直し、お別れ遠足など公共交通を利用した遠足を中止にし、保育の内容の変更するなど臨機応変に対応しました。

一方、公園の共有する遊具で子どもが感染する可能性があるというニュースが伝えられると、公園遊具も全てテープが貼られ遊び場もなくなっていき、散歩に行くことも憚られるようになりました。AS保育室の子どもたちは戸外での活動を大学内で行うことができました。しかし、子どもたちの動き方を見て、保育士から「なんだか、例年よりも動きがぎこちなく感じる」また、「大人がマスクをつけているせいか食べる際、口の動きがうまく伝わらない」などの声が上がりました。保育士は、マスクをつけていても明るく声を出していますが、幼い子どもにとって保育者の表情が見えない関係が今後どのように成長に影響していくかと不安を抱きました。そのため、子どもの命を守るためのリスクを避ける行動をす

ることと同時に子どもの発達にとって必要な育ちの働きかけを積極的にしていきました。子どもたちを抱っこしたり身近で語りかけたりすることなど「密接」にはなりますが、命と育ちを支えていこうと職員一致して保育に取り組みました。

保育所でも感染者が発生したというニュースが報道されると私たち職員は家庭でも一層緊張感を持って過ごしました。そして、4月7日からの「緊急事態宣言」発令です。休園・休校の学校教育と開所の福祉施設との立場の違いが鮮明になりました。私は、「これは、子どもの命の危機、守るための宣言ではないのか。子どもにとって、通う場所によって区別されるのはおかしいのではないか」と強く感じつつ、同時に「保育所の就労支援の役割として、保育の必要な方がいる以上その家族を支援する役割がある」とさらに自覚させられました。保育室はエッセンシャルワーカーとして保育の必要な家庭を支援しますが、自助努力だけでは決して保育室も安全と言い切れるものではありません。長久手市は、市長が保育園の子どもたちも同様に自粛できるように保護者に休園要請文を発行し、4月20日から5月末まで要請をすることになりました (5月19日に解除)。保育室は、医療従事者や出勤しなければならない家庭のお子さんを受け入れていましたが、在宅ワークの家庭は大変な厳しさだったと思います。それにもかかわらず、保護者の方から「先生方用のマスクを作ったので使ってください」と申し出があり「在宅ワーク中の子どもたちの様子です」と写真付きメール等で子どもたちの様子を伝えていただき、家庭を励ましていくべき私たちの方が励まされ支えてもらっていることに気づき感謝の気持ちに溢れました。

今後の「Withコロナ時代の保育」として、密を減らす少人数の保育を考慮した保育方法の見直しや子どもの年齢別基準の見直し、アフターケアとして子どもの心と体の発達を意識して見ていくことが必要です。そして、家庭にいる親や子どもたちの気持ちを大切に、園からの電話やICTなどを使用した子育て応援など柔軟な発想で対応していくことが保育室の教訓と課題として見えてきた期間となりました。



第39回 定例セミナー

「男コピーライター、育休をとる。～ポスト育休の日々～」

講師 魚返 洋平さん(株式会社電通 コピーライター)

2020年10月28日(水)、第39回定例セミナーを開催しました。株式会社電通のコピーライター 魚返洋平氏を講師にお招きし、オンライン中継でご講演いただきました。大学初の試みとして、サテライト会場か、自宅等からオンラインでの視聴かを選べるスタイルで行ったところ、当日は合わせて100名ほどの参加があり、たいへん盛況のうちに終えることができました。

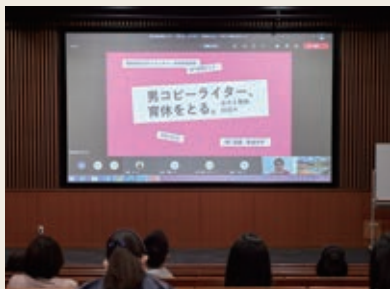
魚返さんは、半年にわたる育児休業を取得した経験をふまえ、「育児休業制度は家族の幸福を追求するための“手段”である」という視点から、夫婦がともに取得することの意義や、育児休業取得後の仕事と生活の変化までをお話くださいました。

このセミナーには「見逃し配信をしてほしい」など多くの反響もあったため、後日、動画の限定配信を行い、そちらでもすでに200名ほどの方が視聴してくださっています。現在も愛知淑徳大学の学生と教職員はオンデマンドでご視聴いただけます。よろしければご覧ください。以下に、簡単ですが参加者からのコメントをご紹介します。

- ◆魚返さんの話を聞いて、男性の育休をポジティブに考えられるようになった。
- ◆魚返さんの「育休は家族の幸福を追求するための手段」という言葉がとても素敵だなと思いました。
- ◆「男性も育児に参加する・家事をする事が素晴らしいこと」と認識されていた時代から、それが当たり前と言う時代へと変化しつつあるタイミングで聞くことができよかったです。
- ◆夫婦で育休を取ることで得られるものがたくさんあると知り、将来私も実践してみたいとなりました。
- ◆キャリア(人生)は容易にデザインできることではないといった意見に共感できました。



「男コピーライター、育休をとる。」
(2019 大和書房)



新任所長挨拶

ジェンダー・女性学研究所所長 坂田 陽子(心理学部教授)

時はコロナ一色、職員は在宅ワーク、教員はオンラインの授業準備で、てんてこ舞いのさなかの2020年7月1日に、突然所長に任命されました。所長として私らしくできること、それは、第一に、ジェンダー視点からみたコロナ禍を後世に残すこと、第二に、学生の学びを止めないこと、でした。そして、両方ともこのニューズレターに込めました。この表紙、そして学生編集のページを見てください。コロナ禍で話し合いはわずかに4回ほど、しかもオンラインと対面の併用という中で、ここまで学生は力を発揮してくれました。学部を超えて学生たちや先生方と創作活動をするの

は私自身も初めてで、多様なプロフェッショナルが集結するとこんなにも面白いものができるのか、と自画自賛しております。また、エッセイもコロナ禍の今だからこそ書ける内容を赤裸々に語っていただいております、執筆者の方々に感謝申し上げます。今後も“たちどまらない”ジェンダー・女性学研究所にご期待ください。

末筆になりますが、5年間事務をしてくださった中村奈津子さんが退職されます。ジェンダーに精通され、学生にもとても慕われておられました。感謝申し上げます。

エッセイ

レズビアン、LGBT、性的少数者…そしてジェンダー



文学部教授 平林 美都子

日本でコロナウィルスの広がりが顕著になり始めた2月中旬、『女同士の絆——レズビアン文学の行方』（平林編著、彩流社、2020年3月）の編集が始まった。2019年度愛知淑徳大学出版助成金が交付された本書は3月末日が出版期限であったため、その後、非常にタイトなスケジュールで編集が進んでいった。入稿まで実質5週間という短い間に、出版社の編集者から何度か質問を受けたり文章の再考を求められたりし、あらためて、ジェンダーやセクシュアリティ概念の難しさを実感した。

出版社からの質問の一つは「トランスジェンダー」という用語の使い方だった。この用語は一般に、一時的な異性装や性別適合手術を含めた総称として使われており、広義では「トランスセクシュアル」も含む。しかし拙著では、「トランスジェンダー」は1980年代、常に女装をしている男性のアイデンティティ・カテゴリーとして作られた用語で、「トランスセクシュアル」とは一線を画していた、と記述していた。用語の使い方は歴史的に変化するという説明で、納得してもらった。

再考を求められたのは、ジャッキー・ケイの『トランペット』を論じた冒頭部分で、私が「LGBT」と称した箇所だった。この小説は、生涯、公私ともに男で通し続けたトランペット奏者の物語である。「LGBT」は近年メディアでもよく取り上げられ、用語自体は社会に浸透している。私自身も安易にこの用語を使用してしまったが、それに対して「この分類に相当しないインターセックスなど、性的少数者を考えて、用語を再考して欲しい」という出版社の編集者から要望が出たのである。よく考えてみると、実際にこれはQueer/QuestioningのQを加えて「LGBTQ」にすれば済む、という話ではなかった。「LGBT」が市民権を得たということはその存在を知らしめたことであり、それによって世間の人々は「LGBT」を「理解している」気持ちになったであろう。しかし、「理解している」ことはその用語が意味する「多様な」生き方を差別なく受け入れることとは別だということである。

『女同士の絆』は「レズビアン」そして「レズビアン文学」の定義から始まっている。そこで述べたような「厄介な定義の問題」(7)は、実際にはあらゆるカテゴリーにつきもの

なのだ。名付けること、カテゴリー化はたしかに理解するための第一歩である。しかし、名づけ、カテゴリー化は同時に、差別を作り出す第一歩でもある。再考を求められた箇所は、結局、「LGBT等の性的少数者」という当たり障りのない書き換えで済ましてしまった。しかし私はもはや、「レズビアン」、「LGBT」と軽々しく総称することはできない。そしてこの件は、ジェンダー、セクシュアリティをあらためて考え直すきっかけとなっていった。セクシュアリティにはジェンダーを軸にさまざまなグラデーションがある。ジェンダーがあるからセクシュアリティが問題になることを考えると、セクシュアリティの問題はジェンダーへと戻っていくのではないか。

近年「ジェンダーの(格差)問題は済んだ」と声高に言う人がいる。果たしてそうだろうか。ジェンダーの二項対立が産み出す差別はまだなくなったわけではない。会議の席上で、男性が同僚女性を「お前」呼ばわりし恫喝するのが日本のジェンダーの現状である。自らの言動を直さずに、「多様な生き方」を語ることはできない。



学内にあるジェンダー

ジェンダー研究会Coalookのご紹介

こんにちは!私たちは、「ジェンダー研究会Coalook」(以下、こあるっく)です!
長久手キャンパス8号棟4階にある「ジェンダー・女性学研究所」で活動をしている、「ジェンダー系サークル」です。

2020年は、Twitter上で「#こあるっく紹介2020」というハッシュタグを作り、活動の紹介および勧誘を行いました。活動に関心がある方はご覧ください!

以下に、こあるっくの活動内容や魅力を、メンバーの声を抜粋してご紹介します!

Twitter
アカウント↓



こあるっくの活動紹介

- 毎週どこかの曜日のお昼休みにジェンダー研究所にてミーティングをしています。是非気軽に見学だけでも来てください!(2年 A)

- こあるっくでは、ジェンダー関連のイベントに参加することがあります。自由参加のため、自分の都合に合わせて行くイベントを選択できます。(2年 B)

(分科会(9月上旬))



- あるテーマにジェンダーの視点を絡めて、メンバー同士で話し合うイベントです! ゆるい話題から真剣なものまで、テーマはなんでもアリです!(3年 C)

- 任意のテーマについて個人の発表を聞いたり、一つのテーマについて意見を交換したりします。参加したことでジェンダーについて身近に感じるようになったイベントでした。(3年 D)

(秋の遠足(10月or11月))

- みんなで遊びに行きます!
ここ数年は、名古屋市内の美術館・博物館・科学館に行っています。お手頃な入場料の施設(学生証の提示で無料になることも)に行くことが多いです(笑)(3年 C)



メンバーが「ジェンダー」に関心を持ったきっかけ

- 同級生から、同性と付き合っていることを告白されたことが、ジェンダーに興味を持ったきっかけです。(G)
- #KuTooの活動をテレビで見たのをきっかけに、ジェンダーの問題に関心を持つようになりました。(2年 B)

こあるっくに向いている人

- 「あれ?これ男女性別関係ないはずなのにどうして分けられているんだろう…」そんな疑問を感じた事がある人(3年 F)
- ジェンダーって聞いたことあるけど実際どうなんだろうと思った人、また、大学の授業でジェンダーについて興味を持った人(3年 D)
- ジェンダー・セクシュアリティについて、なにか思うところがある人、高校で「ジェンダー」「LGBT(Q+)」といった言葉は習ったけど、もっと知りたい!と思っている人(3年 C)

こあるっくのPR

- 途中からサークルに入っても親しみやすい人が多いです(2年 E)
- 性別に捕らわれて息苦しさを感じた人におすすめ。例えば、男だと泣いてはいけない。女の子だから、気働きをしない等。(2年 A)
- 強制力のない活動がメインです。もちろん精力的な活動も大歓迎です!他のサークルと兼部している方もいます!愛知淑徳大学に入学した人は「ジェンダー」という言葉を聞かないことは無いと思います。少しでも興味がある人は是非こあるっくの門を叩いてみてください(3年 D)
- 「研究会」と聞くと堅そうなイメージを持ってしまってもかもしれませんが、実際の雰囲気はゆる〜い感じなので安心してください!

学年関係なく、こあるっくに興味ある方、お待ちしております!!
(3年 C)



ジェンダー・女性学研究所第50号ニューズレター 目次

- ★学生企画(ステレオリムーブ課)……………2~5
学生(チーム)紹介/研究所、蔵書の紹介/座談会

- ★コロナ特集「私はあの時こうやって乗り切ったー2020年コロナ緊急事態宣言ー」……6~8
「女性視点で感じたコロナ禍での就職活動と柔軟な社会への希望」 古川夏帆(心理学部4年)
「自分らしく進むこと」 溝口真央(グローバル・コミュニケーション学部4年)
「コロナ禍の我が家」 安江朋希(事務局総務事務室主任)
「子どもの命と育ちを守るために」 大宮摂子(愛知淑徳職場内保育室(AS保育室)室長)

- ★第39回定例セミナー報告、所長就任あいさつ……………9

- ★エッセイ: レズビアン、LGBT、性的少数者…そしてジェンダー 平林美都子(文学部教授)……10

- ★学生サークルCoalook(こあるっく)活動紹介……………11

施設利用案内

どなたでもお気軽にお立ち寄り下さい。一人でもお友だちと一緒にでも大歓迎です!

開室日 毎週月曜日~金曜日

開室時間 9:00~17:00

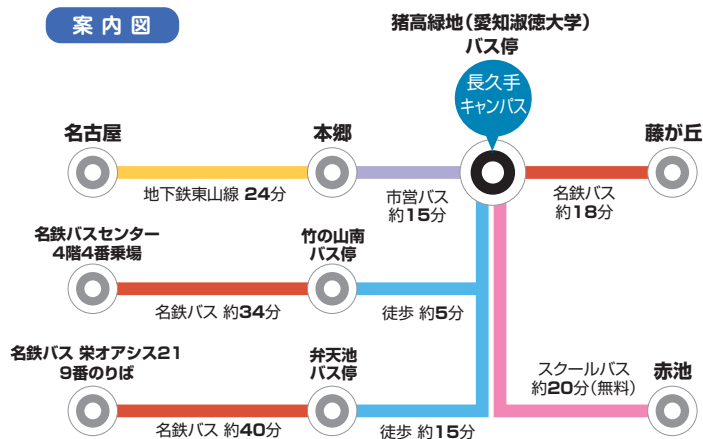
場 所 愛知淑徳大学長久手キャンパス8号棟 4階エレベーター前

遊びにきてね!



ペット型ロボット“プレオちゃん”います。

案内図



ASU・IGWS2020年度

運営委員 _____
 坂田陽子(所長兼) 井上知香 小倉史
 菅野淑 Toff Mika 平林美都子 前田恵子
 村主朋英 山田千聡

事務担当 _____
 中村奈津子

発行年月日: 2021年3月10日
 〒480-1197 愛知県長久手市片平二丁目9
 Phone 0561-62-4111 ex. 2498
 FAX 0561-63-9308
 E-mail: igws@asu.aasa.ac.jp